

提言第 1 号 中心静脈穿刺合併症に係る死亡の分析

事例2

< 事例概要 >

- ・ 肝硬変末期で出血傾向のある患者。
- ・ 死因は、右椎骨動脈損傷による上縦隔及び右胸腔内出血。死亡時画像診断（Ai） 有、解剖有。
- ・ 低カリウム血症の補正目的で、リアルタイム超音波ガイド下に右内頸静脈に中心静脈カテーテル（トリプルルーメン）の挿入を試みたが、ガイドワイヤー挿入時に抵抗がありいったん 抜去した。再穿刺時に息苦しさの訴えがあったが、気胸を疑う超音波所見はなくカテーテルはスムーズに挿入された。終了15 分後より経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）低下、血圧低下を認め、輸液・輸血等で対処するが改善なく、人工呼吸、持続的血液濾過透析等を施行するがカテーテル挿入から 3 日後に死亡した。